

びふりおてか



同志社大学図書館報 No. 13. 1973. 2. 1

書物への一つの愛着

児玉実用

文学部教授

僕には、時ならず繰り返し読む書物が何冊かある。これはその一つ、書名は「工芸の道」、著者は柳宗悦。この本には扉が二つついていて、最初の扉に、濃いセピア色の特殊なインクで著者の署名が入っている。それは、同書が出版されたのは、柳先生がまだ同志社大学で英文学を講じておられ、僕がその学生であった当時のことで、時々先生のお宅へ遊びに寄せて貰っていたこともあったからであろうか、手にしている本を見て、簡単に署名して下さったものである。先生は人も知る秀抜な知識人で、「いわゆる英文学者」ではなかったかも知れないが、英文学に限らず、およそこの世の真に素晴らしいものを、真に素晴らしいとして観る眼を、われわれのような者にも、少しでも開くことのできるように教えて下さった方である。その意味で、少くとも僕には、今日までどれ程先生に負う欠があるか知れない。何だか物を見る眼がかすんで来たな、と思うと先生のどの著書かを読みかえして眼を覚させて戴く。そんな時、今いう署名がまた一入書物への愛着を深くする。それは先生と目前で接し合っている親近感と共に、畏敬の念を強め、書物の内容がじきじきに伝わってくるように思えるからである。

このようなことは、署名についてだけでなく、エクスライプリス（蔵書票）や蔵書印についても同じだと思う。それは内外の古書を買った時によくおこる。イギリスの古本屋から取寄せた本に、見るも見事な蔵書票が貼られていて驚いたことがあった。そんな時、全く見知らぬ人ながら、この人もまたこの本を読んだのかと、何か読書に張合いが湧いてくる。また日本の古本屋で買った洋書には、珍らしく日本人の蔵書票が貼られてあって、見るとこれもまた上記の柳先生のものであったことがある。先生と親交のあったバーナード・リーチ氏がタンポポをデザイン化したものであった。先生によ

うに、深く読まねばならないと念じたことである。和書の古本にある蔵書印では、あまり奇縁らしいものに出会ったことがない。けれども和装の古い英語学習書に「徳島藩文庫」と捺印されたのを入手した時、洋学に対する先人の努力に、何か励まされるような気持ちになったものである。

僕は決して署名や蔵書票や蔵書印の蒐集マニアではない。けれ共偶然にめぐり合うそのような書物に一種特別な愛着を持つ。もう三十幾年もの昔、当時イギリスの若い小説家の作品を感読したことがあった。遠く日本から、その心を著者に通じたところ、折り返し署名入りで著者の自叙伝的小説が寄贈されてきた。その名はレズリー・ホールワード。その後あまり有名にもなっていないが、ただそのことだけで、その本とその本にいつまでも愛着を感じている。

思えば、あまり多からぬ僕の蔵書の中には、そのようなものが知らぬ間に多少の数にのぼってきている。T・S・エリオットやロバート・フロストの署名入りの詩集や、オクスフォード大学教授その他海外英文学者の署名入りの研究書が幾冊もあり、同志社関係では、速水藤助先生（の所蔵で）サインのある英語聖書、舟橋雄先生や園頼三先生がたのサイン入りの自著などがある。海外の前者はそれぞれある機縁によるもの、後者にあつては、そこにある恩師自らの筆蹟を見ると、いつまでも敬慕の念を深くしてやまない。

中にはおもしろい文句入りのものもある。N・H・ピアスンさんの来日に際し、同教授編纂の *Romantic Poets* を持参して見せたところ、ひたたくるようにして *“Nothing could, indeed, be more romantic than to meet this book in Japan.”* とペンが走り、それに添えて署名がなされた。その書物と共に、その時の同氏の皮肉まじりの微笑をいつも思い出す。

こんなものもある。昔イギリスの古本屋からD・G・ロセッチの詩集を買った時のことである。見ると頁の間に、ロセッチの死の報道と追悼記事を掲載した1882年4月のロンドン・タイムズがはさまれていた。得がたい資料である。同書の前の所有者だったジャックスンの署名と共に忘れられないものがある。そのロセッチに僕は長い歳月にわたって関心を持ち続けている。彼の弟がW・M・ロセッチという評伝家で、多くの書物を書いているが、兄の詩集の編纂や、兄らがおこしたラファエル前派運動に関して書いた書物がかなり多い。僕の持つ、兄についての著書三冊（いずれも今は稀こう本になっているが）には極めて深いつながりがある。というのは、著者にはメーリーとヘレンの二人の娘があり、先ず父なる著者はそれらの書物を *“To Mary with her father's love 1898”* としてメーリーに与え、次にそれを妹のヘレンがゆずり受け、そして最後に *“From my dear sister Mary's books to Sanechika Kodama 1961 Helen Rossetti Angeli”* として僕にゆずられた。書物の最初の空白の頁に、その経路を示すかのように、それぞれ異つた手の署名がなされているのを見る時、相互の間にただならぬ奇縁を感じ、愛着おく能わないものがあると共に、恐しいばかりの自粛の念に迫られる。そしてこのような書物をゆめ手離そうなどいう気にはなれないどころか、ますます大切にしたいと思う。

かつて学生時代に、当時としては一ヶ月の食費と下宿代相当額で、あの大きな *New Standard* の辞書をセカンド・ハンドで買った。それには Kazumi Yano と赤インクのサインがあった。矢野峯人先生の本名が不稔（かずみ）だとはまだ知らなかった当時のことである。その後二十年、始めて矢野先生と会った時、実は……と話したら、「それなら僕の辞書に間違いない。僕の外遊中に金の要ることがあって、書斎のこれこれの本を売って送金するようにと頼んだ時の、それは一つだ。幸いにして君の手にわたっているとあらば、大事に手許においておいてくれたまえ。」といわれた。無論今も大切に愛用している。これからも手はなすことはない。これら以外、日本の研究書、詩集、翻訳書などに著者の署名入りの本が僕には少くない。それらについても愛着を持つ心はみな同じである。

だが僕には悲しい経験がある。まことに拙ないながら、僕のある詩集が出た時、遠方の親しい友人に、献辞を書き署名もして贈呈した。友は喜んで詩句の中の一、二行を書家に書いて貰い、額表装して自室に掲げてくれていたくらいで、それはそれで大いに感激のものであった。ところが二年余りしてから、ある人が「あなたが友人に呈した署名入りの詩集が伏見のある古本屋に出ていました。あんなのが古本屋にあるのは、どちらの人にとってもいいことではないと思って買い取ってきました。」と親切にも持ってきて下さったことがあった。見るとまさしく親しい某君宛のものであった。愕然とした。その友とは、その後も親交を続け、談笑をかわす仲であったが、そして今は故人であるが、生存中、遂にそのことだけはどうしても口にせなかつた。多分心なき（というほかはない）家人が不用意に勝手なことをしたのであろう。心すべきことだと思ふ。

多感な青年時代には、僕もよく著者に署名を求めたものだが、最近の青年達には、署名を求める者は極めて稀になっているようである。そんなことははやらないらしい。感傷的だと思っているのかも知れない。或いは署名について無知なのかも知れない。否、それがただしく、それでいいのであろう。何も署名なんかを意に介せず、ただ読むべきは内容というのが読書の本命であり、正道であると信じる。事実僕にも無署名の書物で愛着を持つものも多い。そもそも署名なんかにかかわりを持ち、それ故に書物に特殊な愛着を持つのは、読書や蔵書の邪道であるかも知れない。それにちがいないと思う。

そうでありながらも僕は、これぞという書物に、署名でも何でも著者とのゆかりを増す何かがあることの方が、ないよりは一層その書物に愛着を感じる気持は、今もってどうとも抑えられない。

公害に関する二次文献について

公害問題が大きくクローズ・アップされ、関係文献も最近めだって増えてきました。今回はこの公害をとりあげました。公害関係の文献を調べる手がかりとなれば幸いです。なお公害に関する単行本については、本館でかなり収集していますから、利用する場合は新分類の目録で、公害一般については519.5を、公害法については323.98を、環境衛生については498.4を、又都市行政の318.7をも見て下さい。

〔I〕 公害関係文献目録

1. 地方自治体刊行公害関係資料目録稿

佐久間信子，鈴木明，山田好延編（参考書誌研究 創刊号 昭45 P.49～72）（図書館）
内容は公害一般，大気汚染，水質汚濁，地盤沈下，騒音，悪臭の6編に大別

2. 中央官庁刊行公害関係資料目録稿

佐久間信子，鈴木明，山田好延編（参考書誌研究 第3号 昭46 P.27～63）（図書館）
中央官庁，公共企業体，政府関係機関刊行の公害関係資料で，昭和46年3月末までの国立国会図書館所蔵資料のほか，「公害関係資料目録」（専門図書館協議会，関東地区協議会編），「公害関係図書目録」4冊（防災専門図書館編）およびその他の官庁刊行物目録から参照収録したもの。
内容：公害一般，大気汚染，水質汚染，地盤沈下，騒音，悪臭，放射能汚染，塵芥し尿処理，疫病（伝染病）・公害病

3. 基本文献目録：公害法・公害訴訟

平野克明編（法律時報 1971年7月号臨時増刊 特集・公害裁判 P.84—93）（新P320.1；H2）
公害問題，公害法，公害訴訟に関連する主要文献を収録したもの。地方自治，地域開発問題は割愛。

4. 公害文献・資料目録

（全書国民教育 6：公害と教育 明治図書 昭和45 P.333～359）（新370.8；Z(6) 自由閲覧室）
内容：(1)公害文献 (2)各省資料 (3)雑誌「公害」特集 (4)主要雑誌論文・資料 (5)現地報告，地域分析

5. 公害行政・公害法関係邦文雑誌論文文献目録 1—3

国立国会図書館参考書誌部法律政治課編（国立国会図書館月報 73～75 昭42 図書館）
公害の法的，行政的規制に視点を置いて作成したもので，戦後から1967年3月までの資料を収録。排列は日本と外国の公害に大別し，前者を事項別に，後者を国別に分け，その中は論文名の五十音順による。

6. 公害辞典

井上宣時，小島弘伸，野村好弘編 帝国地方行政学会 昭47 371,41P.（新519.5；K17 参考図書室）
巻末にP.25～41にかけて参考文献（単行本に限定）が掲載されている。

7. 公害関係文献案内

（ジュリスト 臨時増刊 1970年8月10日号 特集公害—実態・対策法的課題 P.402～407）（新P320.1；J）

8. 公害関係文献目録 予備版

石川博道編 慶応義塾大学三田情報センター 1972 23P.（発注中）

9. 公害関係文献目録

(公害問題総覧 公害対策情報センター編 ケイザイ春秋社 昭47 P.1449~1460) (新519.5;K18 参考図書室, 新町読書室)

刊行年の遡及年次別に排列。

10. 公害関係雑誌論文目録 (1)~(3)

国立国会図書館参考書誌部経済社会課編(国立国会図書館月報 111~113 昭45) (図書館)

範囲は昭和44年1月から昭和45年5月までの国立国会図書館所蔵の雑誌論文目録。

このほかに、最新の公害関係の雑誌文献を調べたい時は雑誌記事索引で調べて下さい。月刊のものでは国立国会図書館の「雑誌記事索引」人文・社会篇(新P027;Z)があり、年刊のものでは日本開発銀行中央資料室編纂の「産業経済雑誌主要記事索引」(新P028.3;S)があります。

〔Ⅱ〕 公害関係法令・判例資料

1. 註釈公害法大系 全4巻

金沢良雄監修 日本評論社 昭47 (現在第2巻だけ刊行) (新323.98;C 自由閲覧室)

内容:第1巻公害基本法 第2巻公害規制法 (1)水 第3巻公害規制法 (2)大気 第4巻紛争処理・被害者救済法
本書は公害関係全般にわたる法令の体系的な註釈書として唯一のものである。

2. 公害便覧 1972年版

環境科学研究所編 坂本藤良監修 日本総合出版機構 昭46 328P. (環境科学シリーズ1 ホワイト・ブックス6) (新519.5;K10〔1972〕参考図書室, 新町読書室)

内容:第1部法律 第2部条例 第3部見解および報告書 第4部環境基準 第5部公害紛争・訴訟 第6部融資・助成・税制

3. 公害法ハンドブック

金沢良雄等編 第一法規 昭44 1冊(加除式) (新323.98;K2 参考図書室)

本書は公害法の体系的な理解に役立つように公害関係の法令, 判例, 具体的事例, 資料などをひろく収録したものである。

4. 公害関係法規判例集

環境庁総務課編 帝国地方行政学会 昭43 4冊(加除式) (参考図書室)

5. 公害関係法令・解説集 昭和47年版

帝国地方行政学会 昭43 830P. (新323.98;T)

昭和47年2月10日現在における公害関係の法律, 政令, 省令, 告示, 通達を収録。

6. 公害問題総覧

監修 環境科学研究所 代表 坂本藤良 編集 公害対策情報センター ケイザイ春秋社 昭47 1460P. (新519.5;K18 参考図書室, 新町読書室)

内容:第1部法律・条例 第2部環境基準 第3部公害紛争 第4部融資・助成・予算 第5部公害対策情報組織源

7. 公害六法 昭和45年版

厚生省環境衛生局公害部編 中央法規出版 昭45 1122,125P. (新323.98;K5 参考図書室, 新町読書室)

8. 水質保全関係法令集

環境庁水質保全局編 大成出版社 1972年 382P. (新323.98;K6 参考図書室)

9. 最新公害関係法令集

法制研究会編 文憲堂七星社 昭46 309P.

10. 新公害14法の解説

商事法務研究会編刊 昭46 440P. (新323.98;S 自由閲覧室, 新町読書室)

昭和45年11月24日の第64国会(臨時国会)で成立した公害関係14法全部について解説したものである。

特殊文庫（その7）

小林文庫

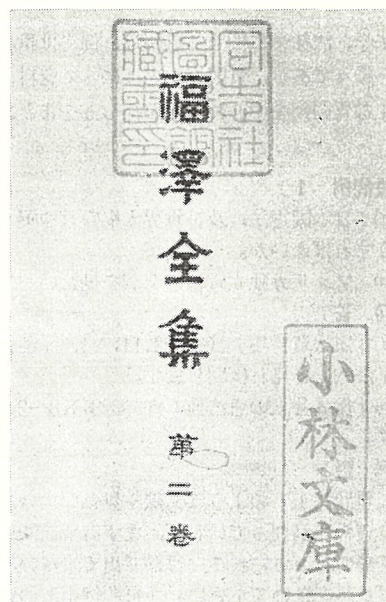
1920（大正9）年、久しい間待望され、また旧大学令による同志社大学設立認可の一つの要件でもあった新図書館（現・図書館本館）が完成、同年5月には開館式が挙行されるに至った。これによって、わが同志社は建造物としての立派な図書館をもつこととはなったが、当時の蔵書は50,000冊に達せず、その内容の充実が切望されて1921（大正10）年以降、年間図書費はそれ以前とは飛躍的に増額されはしたものの、なお大学・図書館両者のそれを合わせても3,000円内外であり、また年間増加冊数も寄贈・購入を合計して1,000冊内外であって必ずしも十分なものではなかった。このような時期にその充実になんかからず寄与したものに校友篤志者の寄贈による特殊文庫の設置があげられるが、前回（No.11:1972.2.）に紹介した三宅文庫（瀧本誠一旧蔵書）につづいて設置されたのが、ここに紹介する小林文庫である。

この文庫は校友であり、当時常務理事として海老名禪正総長をたすけ、新しく発足した大学を中心として発展途上にあった同志社の学園経営に尽力した小林正直氏（明治26年、同志社普通学校卒業）の寄附金10,000円を

基金とし設けられたものである。すなわち、1923（大正12年）小林理事の寄せられたこの基本は「小林図書資本」となづけられて、大学の資産とされ、それから生ずる年ごとの利子約600円で年々約100冊内外の新刊書を購入収集したもので1925（大正14）年、まず69冊で発足、年々累増して1935（昭和10）年には1,011冊を数えるに至った。これらの図書の多くは、経済学に関する和書を主体とし、一部に教育学その他の分野にわたるものが含まれていて、その殆どが図書館2階の大閲覧室の一隅に特別の書架を設けて置かれ、開架方式で利用に供せられていたのである。そして十数年間、経済学関係の新刊書の集書として教職員・学生生徒に大いに活用され、1935（昭和10）年の記録では1日平均3割内外（約300冊）が利用されているとしている。なお、この文庫の一部で教育に関する図書は神学研究室（現・クラーク記念館内）に保管され、教育学の教員研究用図書に当てられていた。

しかしながら、この文庫が設置されてから凡そ15年、1938（昭和13）年、その基金と一部の図書は岩倉校地の同志社高等商業学校（現・商学部）に新しく建てられた小林商業研究館の図書室に移されて、同校の所管となった。それは小林商業研究館が、その名の示す通り小林文庫の基金の寄贈者と同じ小林正直氏の寄付によるものであることから、その妥当性が認められたためであろう。これによって同校の蔵書の充実という点では寄与したであろうが、本館にとっては上述のような状況から見て、当時はある程度の打撃であったことも想像されうと思うのである。

さらに凡そ10年ののち1949（昭和24）年、当時すでに同志社経済専門学校と改称していた同校は今出川校地に移転し、その図書室も彰栄館に置かれたのである。ついで同年4月、新制の同志社大学商学部の発足とともに、その蔵書は商学部研究室に引き継がれて今日に至っているが、基金についてはすでに早くより貨幣価値の変動から、その基金の意味を失ってしまった。一方、本館に残された蔵書は引き続き小林文庫として活用されて来たが特殊文庫として別置されていないので現在の総冊数は不詳ではあるが、比較的整備された、カード式分類目録があるのでその蔵書の内容を窺うことができるそれによれば大正末期から昭和13年までのわが国で刊行された経済関係の和書を主とし、社会科学全分野にわたり、また若干の洋書も含まれているが特に取り立てて紹介するほどの貴重書、珍籍は見当たらない。



資料のさがしかた—4—

— 法学、法律学関係を中心に —

法学、法律学に関する質問は、例えば世界各国の憲法の訳文はあるか、重要事件の判例を見るにはどうしたらよいか、など様々であり、質問の内容によって資料の検索の仕方も自ずから変わって来ます。今回は、こういった法学、法律学関係の主な質問例を中心に資料の探し方をまとめてみました。

〔質問例 1〕

(イ) 日本国憲法、及び世界人権宣言を英文で見たいがどうすればよいか。

(ロ) アメリカ独立宣言の全訳を見たい。

〔回答〕

(イ) 「憲法資料集」(㊦323.14; A), 「条約集」(㊦455: Y2-2)を見れば判ります。

(ロ) 「世界各国の憲法典」(㊦323; K3-2)にのっています。

〔解説〕

〔質問例1〕のような文献を見たい場合、個々の具体的な資料名が判っていれば、まず有隣館閲覧室の書名目録をひいて下さい。この目録で出て来ない場合は、次に分類目録をひいて下さい。〔質問例1〕の質問は憲法の分野(新323,旧452)ですから、分類目録で新分類323,旧分類452の項をひけば上記の資料が出て来ます。(目録ケースに備え付けてある分類表を利用すると分類目録を理解するのに役立ちます)。又、有隣館閲覧室カウンター及び参考図書室に「日本の参考図書」(㊦028; N2-1a)という資料があります。これを見れば、憲法集にはどんなものがあるか、各種宣言、条約がのっている資料にはどんなものがあるかが一目で判ります。「日本の参考図書」は法学に限らず、経済、歴史、文学、芸術、化学等々、人文、社会、自然科学の分野に於ける資料にはどういったものがあるかを調べる場合、非常に便利です。

〔質問例 2〕

法学関係の入門的な本を紹介して下さい。

〔回答〕

まず分類目録で法学のところ(㊦321, ㊦451)をひいて下さい。図書館に所蔵している法学関係の図書が出て来ます。その中から必要とする図書を請求して下さい。

「日本の参考図書」によると「法学研究の栞」(㊦320.7; J)が、入門的な解題書として基本的な文献を収録、解説しているので参照して下さい。

〔質問例 3〕

(イ) ハ海事件に関する書物(記録ないし批判)があるか。

(ロ) 砂川事件が法律問題として取り扱われている文献を知りたい。

(ハ) チャタレイ裁判に於いて裁判所の取った処置、見解について資料を紹介して下さい。

〔回答〕

(イ) 単行書としては所蔵していません。雑誌記事としては、ジュリスト内容総索引(㊦P320.1; J-2)、判例時報総索引(㊦P320.1; H13)によると、ジュリスト141号3332号、判例時報130.134.201.300号にお尋ねの資料が記載されています。

(ロ) 法律時報総索引(㊦P320.1; H2-5)、法学セミナー総目録(㊦P320.1; H6-2)によると法律時報32巻2号法学セミナー1959年9月, 11月, 60年2月, 61年2月, 6月号に取り扱われています。又、上記(イ)のジュリストや判例時報の総索引でも関連記事を調べることが出来ます。

(ハ) 上記(イ), (ロ)に掲げた索引を見ると最高裁判所判例集(㊦P320.1; S)11巻3号に判例が、判例時報105号(臨時増刊)、ジュリスト第4巻に関連記事がのっていることが判ります。単行書としては、分類目録を検索すると「チャタレイ夫人の恋人に関する公判ノート」(㊦456.9; 02)があり、参考になるかと思えます。

〔解説〕

法学、法律学関係の雑誌を見たい場合、自分の調べたい雑誌の誌名、年度、巻数等が判っていれば、有隣館備え付けの雑誌(逐次刊行物)目録をひけば出て来ます。又所蔵の有無を調べたい場合は、カウンター及び参考図書室に「同志社大学雑誌新聞総合目録」(㊦027.5; D)を置いていますからそれで調べて下さい。

具体的な雑誌名・年度、巻数等が判らない時は、法律関係雑誌の各種総索引、総目次、「法律関係雑誌記事索引」(㊦P028; H)「邦文法律雑誌記事索引」(㊦P028; S2)等で目的の資料を検索することが出来ます。

総目次や索引自体の有無を調べるには、「雑誌総目次索引集覧」(㊦027.5; A-1a)を利用して下さい。

参考までに、〔質問例3〕に出ている重要事件については、

1. 法律関係雑誌記事索引
2. 判例時報総索引
3. ジュリスト内容総索引
4. 法学セミナー総目録等に関連記事が一括してまとめてあります。又、カウン

ターに「戦後国内重要ニュース索引」(㊦039; K)を置いていますので、これで事件当時の新聞記事を見ることが出来ます。

判例そのものを見たい時は、各裁判所判例集や参考図書室の「判例体系」(㊦459; I)を見て下さい。各裁判所判例集は判決日からの検索、判例体系は内容からの検索に便利です。又、判例時報総索引は、各判例の年月日索引、内容別索引がありますので併せて利用して下さい。

▽図書館所蔵の主な判例集

1. 大審院民事判決録 (㊦324.098; D)
明治28年1月～大正11年12月
2. 大審院民事判例集 (㊦459; D)
大正11年1月～昭和21年1月
3. 大審院刑事判決録 (㊦326.098; D)
明治28年7月～大正10年12月
4. 大審院刑事判例集 (㊦456.9; D)
大正11年1月～昭和22年3月
5. 最高裁判所判例集 (㊦P320.1; S)
1巻1号(昭和23年) →
6. 高等裁判所判例集 (㊦P320.1; K)
1巻1号(昭和22年) →
7. 下級裁判所民事判例集 (㊦324; K 2)
1巻1号(昭和25年) →

▽判例については各種判例集で見ることが出来ますが、判例の評釈、批評、研究については、

1. 戦後判例批評文献総目録(判時報358号549号)
2. 判例百選, (別冊ジュリストNo. 2)
続判例百選(" No. 3)
3. 邦文法律雑誌記事索引
4. 判例タイムズ総索引 (㊦P320.1; H8-2)
5. 法学研究の栞 (㊦320.7; J)
6. 法学年鑑, 第3部 (㊦450.5; N12)

にまとめてありますからこれらを参照して下さい。

〔質問例 4〕

公安条例についての学説及び判例と、京都大阪の公安条例でデモはどのように規制されているかを知りたい。

〔回答〕

雑誌記事については、〔質問例3〕の〔解説〕で示した各種総目次、索引で憲法の項を検索すれば目的の資料を得ることが出来ます。その他、参考図書室の「マスコミ法令要覧」(㊦323.986; M2)によって知ることが出来ます。又、単行書としては、分類目録で憲法の項をひくと、「判例からみた日本国憲法の展開」(㊦323.098; K)「憲法の判例」(㊦323.098; Y)等が質問内容に該当する資料として参考になると思います。

〔質問例 5〕

(イ) 改定後の日米安保条約全文を見たい。

- (ロ) 司法試験に関する事柄を知りたい。
- (ハ) 高等学校学習指導要領を見たい。
- (ニ) 大学設置基準、国立学校設置法の資料があるか。

〔回答〕

(イ), (ロ), (ハ), (ニ), いずれも参考図書室にある「現行法規総覧」を見れば調べることが出来ます。

〔解説〕

重要な法令、一般的な法令は六法全書で見ることが出来ますが、一般的でない法令、比較的細かな法令は、この「現行法規総覧」が便利です。この法令集は加除式で法令が新たに制定公布されたり、改廃されたりすると、その都度さしかえを行い常に法令の現行状態を維持するように工夫されたものであり、法体系毎に編さんしてあります。廃止法令、改正前の法令を調べるには「官報」(㊦P317; K)及び「法令全書」(㊦320.91; H)「法令改廃総覧」(㊦458; N9)等を見なければなりません。

〔質問例 6〕

- (イ) プロイセン憲法の内容、条文、特徴を知りたい。
- (ロ) ドイツ破産法(加藤正治著)の出版年、発行所を調べてほしい。
- (ハ) 元禄から享保にかけての町人社会に起った犯罪事件について知りたい。

〔回答〕

(イ) 図書館には残念ながら資料はありません。ただ参考資料として、「ナチスドイツの憲法論」(㊦452.5; K)「ドイツ初期立憲主義の研究」(㊦323.34; K)がありますから参照して下さい。
(ロ) 「大正9年、有斐閣から出版されています。
(ハ) 「江戸の犯科帳」(㊦467; H5)「御仕置伺帳」(㊦467; M3)、「徳川禁令考」(㊦467; H4)がお尋ねの内容に該当すると思います。

〔解説〕

〔質問例6〕のような個々の主題に関する質問の場合、資料の探し方はいろいろ考えられますが、一例として、「戦後法学文献総目録(公法, 私法編)」(㊦028.323; N)「法律図書目録」(㊦028.32; S)「法制史文献目録」(㊦016.46; H)といった法学関係の資料を収録した文献目録で、各主題の項目を検索する方法があります。そしてこれらの文献目録で目的の資料が見つければ、目録カード(書名目録)をひき、カウンターに資料を請求して下さい。又、〔質問例1〕の解説で触れた「日本の参考図書」、やや時代は古いが同じ性格の「研究調査参考文献総覧」(㊦016; H2)等が参考図書として役立ちます。このように法学、法律学関係の質問だけでも、その内容は多岐にわたっており、資料も単行書、雑誌記事、新聞、法令集、判例集等々、様々なものです。〔質問例〕としてあげた質問はほんの一例に過ぎません。本来ならば学生諸君が、自分自身で資料を探すのが望ましい訳ですが、必ずしも自分で出来る場合ばかりだとは限りません。このような時には、遠慮なく係員に申し出て下さい。出来るだけ御希望の資料を提供したいと思います。

民権運動のバイブル

「社会平権論」

本書はかの有名な哲学者ハーバート・スペンサー (Herbert Spencer 1820—1903) の比較的初期の著作 “Social Statics” の訳本である。原書の初版は1850年英国で出版された。本書は1864年米国で再版したものをテキストとして訳し、はじめ明治14年から分冊 (全6巻) で逐次出版されたが、後明治17年に一冊にまとめて出版されている。ここに紹介する本館所蔵のものは、前者の第1巻から第4巻までを合冊製本したもので残念ながら第5巻と第6巻はない。明治初期中期の自由主義思想家、自由民権運動の少壮の卓越した論客として華々しく活躍した植木枝盛の旧蔵本である。

本書が出版されたのは、時あたかも明治専制政府の中央集権的絶対主義権力に対し、国会の開設・民主化を強力に要求する自由民権運動がその頂点に達している時期であった。そうした時代の趨勢と要求にマッチした本書は民権論者の間に広くゆきわたり、深い感銘と大きな影響を与えずにはおかなかった。書名の「平権」の二字を始め、今日われわれが何のためらいもなく日常口にして自由・平等・正義・権理 (利)・義務等当時としては耳新しい魅力ある新語が随所にあらわれ、第19章 国家ヲ無視スル権理、等の革新的なその論調は政府権力に大きな衝撃と脅威を与えたとともに、一方自由民権運動に力強い論拠を提供した、恰好のバイブルの役割を果たしたとおもわれる。土佐の立志社は電報で数十数百部をまとめて注文し、板垣退助は民権の教科書として本書に心酔したといわれるが、これらの一事をみてもその反響の大きさがうかがわれる。



明治政府はわが国の改革・近代化のため欧米先進諸国の文明・制度を相ついでとり入れたが、これにともない幾多の欧文献が翻訳出版された。翻訳草創期の訳者達は、その訳語をつくるのに随分苦心しているが、“century”を“世紀”、“ignore”を“無視する”と訳したのも本書が最初であるといわれる。

とにかく、いずれにしても本書は明治前半期のわが国思想界、政界に多大な影響を及ぼした有数の文献であり、また当時の研究に欠かせない文献の一つであろう。

なお本書の出版に先立ち、尾崎行雄の同原書の抄訳「権理提綱」が明治10年に出版されている。この訳本そのものは本館にはないが、尾崎男堂全集第1巻 (公論社、昭31) (@089.1:08) の中に収録されている。

あとがき

「びぶりおてか」13号をお届けいたします。商学部教授 元図書館長 徳永清行氏より「日亜対訳 注解 聖クラーン」昭和41年度本学経済学部卒業生 角田浩士氏より「百科辞典及び美術書」36冊の、それぞれ御惠贈に接し、ありがたく拝受いたしました。御芳志厚く御礼申し上げます。

“びぶりおてか” 同志社大学図書館報 No. 13. 1973年2月1日 発行

発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 211-2311

編集責任者 前川嘉門